

# アメリカ留学に必要な TOEFL スコア

我々がぼやぼやしている間に、世界のノンネイティブの英語力は大変なレベルに達しており、それに応じてアメリカの大学院も超絶のスコアを要求し始めています。以下の様なデータが目安になると思います。尚、TOEFL は Reading, Listening, Speaking, Writing が各 30 点で満点は 120 点です。

1. MIT の建築学科の一部： **115 点**
2. Stanford 大学のコンピューターサイエンス： **113 点**
3. Princeton 大学の全合格者の平均スコア： **108 点** (Princeton は必要最低点を定めていないのにこの点)
4. MIT の工学研究科合格者の平均スコア： **108 点**
5. MIT の Chemistry は、TOEFL に加え **アメリカ人用の英語 (国語) の試験である GRE の点でも留学生の英語力を判断**すると Web で明言。
6. UCLA は絶対的最低点としては 87 点しか要求しないが、セクションごとの望ましいスコアとして **Speaking で 24 点**を求める。

## 【青谷のコメント】

- 113 点や 115 点は帰国子女の多くが取れない点。平均的な英語教員もまず取れない。さらに、青谷自身最高は 120 点だが過去最低は 113 点か 114 点であった。理系なのにこの足切り点は超絶だと思う。
- もっとも、MIT の工学研究科と文系理系を合わせた Princeton の平均スコアが共に 108 点であるところを見ると、もはや文系も理系も関係無い。
- GRE はノンネイティブには簡単に手が出ない問題も多い。これを留学生の査定に使うとは、真の英語力を要求する大学の姿勢と志願者の英語力の異様な高さの現われ。
- 日本人の Speaking スコアは世界最低レベルの 15 点。京大生の平均スコアも同様の 15 点。高校だけ海外など帰国子女で 24 点取れない人はいくらでもいる。
- 実は TOEFL は基礎的な英語力だけで点が取れる試験ではない。国語力が高くなければ、アメリカ人でも点が取れない。実際勉強のレベルの高くない大学の 1 回生からアメリカ人 950 名を選んだ ETS の大規模な検証では、平均点が Reading 20.9 点、Listening 21.7 点、Writing 19.6 点、Speaking 24.8 点、合計は 87 点と、得点より失点が目立つ恐るべき結果であった。ペラペラしゃべれたら点が取れるような甘い試験ではないのは明らか。

**ネイティブでも出来ない TOEFL。英語力・思考力・作文力を研ぎ澄ますべし。**